

# ひろは

Vol.108

2007.10.30.

東京工芸大学同窓会

<http://www.t-kougei.gr.jp>

〒164-8678

東京都中野区本町2-9-5

Tel 03-3372-1321

design SALAT

## 「温故知新」の心で 同窓会80周年を祝う

会長 田沼武能

秋晴れのよき日に東京工芸大学同窓会80周年を祝うことができたことは大いなる喜びである。かつて同窓会は資金難のため、支部を解散してしまった。その支部の必要性を感じ、一昨年から支部の再生のため支部長を選出するなど、役員一同が鋭意努力したことが今回の成功につながった。

80年の歴史を持つ大学は、そう沢山はない。誇るべきことである。学校法人からは小野茂夫理事長、大学からは小林信行学長をはじめ工学部、芸術学部両学部長ら多数の関係者が出席され、総数200名を超える盛大な式典と祝賀会を催すことができた。また、75周年来の懸案であった同窓会沿革史も編纂し、出席者にお渡しすることができた。これらの成果は役員の方々の苦労の結晶であり、この場を借りて厚く御礼申し上げる。

学校創立当初の方々はずでに他界している。幸い9期卒業の高橋佑氏が出席された。95歳というが精灼として学生時代の思い出話を壇上でされたのが印象的であった。沿革史にも登場しているので、ぜひお読みいただきたい。

沿革史は単なる思い出話ではなく、その時代の学生と社会の関係、学校の変遷が書き込まれている。それらは次世代へ語り継ぐ礎材と見解を得る貴重な資料でもあり、論語のいう「温故知新」と解釈する。

大正15年第1回の卒業生はわずか17名であった。いまは芸術学部だけでも毎年500名を超える卒業生が巣立っている。同窓会員の総数は延べで約1万8,000人という。写真の専門学校として始まった本校は、写真学科をはじめ、映像、デザイン、メディアアート表現、アニメーション、マンガ学科などの総合メディア芸術と工学系の大学として成長を続けている。わが同窓会は、これから90周年、100周年の記念式典が盛大にできるべく、大学とともに発展を続けてゆかねばならない。母校と同窓会の繁栄を願う次第である。



# 東京工芸大学同窓会 創立80周年記念大会

## 記念式典

2007(平成19)年  
10月7日(日) 13時～



田沼会長の挨拶



小野理事長の挨拶



小林学長の挨拶



受付風景



式典風景



学校法人理事長から同窓会会長、副会長への感謝状授与



### 式次第 式典の部

- 一、開会の辞 八十周年記念大会実行委員長 奥田 昇
- 一、会長挨拶 東京工芸大学同窓会 会長 田沼 武能
- 一、来賓祝辞 学校法人東京工芸大学 理事長 小野 茂夫
- 東京工芸大学 学 長 小林 信行
- 東京工芸大学工学部同窓会 会長 新 精一
- 東京工芸大学女子短期大学部華輪会 会長 宮永 悦子
- 一、基調講演 デジタル写真を考える 写真家 秋田淳之助
- 一、閉会の辞 東京工芸大学同窓会 理事長 川名 晴美

### 式次第 祝賀会の部

- 一、開会の辞 東京工芸大学同窓会 副会長 細江 英公
- 一、挨拶 東京工芸大学芸術学部 学部長 若尾真一郎
- 一、乾杯 東京工芸大学 名誉学長 本多 健一
- 一、歓談
- 一、ピックアップ 9期の卒業生 高橋 佑
- 一、中締め 東京工芸大学同窓会 副会長 大澤 登
- 一、お開き



司会



会場風景



工学部同窓会長 新氏の祝辞



理事長



記念講演の秋田氏



会場風景



会場風景



ロビー風景



本多名誉学長の乾杯

# 祝賀会

2007(平成19)年  
10月7日(日) 15時～



9期高橋佑氏の挨拶



若尾芸術学部長の祝辞





写真左から→  
 華輪会会長 宮永氏  
 工学部同窓会副会長 岩田氏  
 後援会会長 川上氏

東京工芸大学 中野祭 (2007) ポスター



池田陽子 (39期) 写真展  
 「舞わせてもらいます」  
 地唄舞・山村楽正の世界  
 2007.8.1~8.12 京都ギャラリー



浅野耕平 (73期)  
 「晴れた日に会いましょう」  
 インタラクションとコミュニケーションとアートの展覧会  
 2007.9.26~10.1 秋葉原 UDX2F time A ギャラリー

竹内正憲 (80期) イラストレーション展  
 「Fantastic Footballers」  
 2007.9.3~10.2 kawara CAFE&DINING



## 「フジフィルム フォト ミュージアム」

2007年8月14日付の読売新聞夕刊に、興味ある記事を見つけた。この3月30日オープンした東京ミッドタウン(港区赤坂9丁目)に本社ビルが移転した富士フィルムの1・2階に、写真文化の新たな情報発信拠点としてフジフィルム スクエアが開設された。その2階に富士フィルムフォトサロンに並んで、歴史館「フジフィルム フォト ミュージアム」が設けられたことの紹介である。同館では写真の歴史に触れ、時代の変遷や文化の歩みを体感できるという。展示室に入る通路の左右には富士フィルムの歴代のカメラ・フィルム・8ミリ・デジタルカメラまで各ケースごと展示され、ところ狭しと並んでいる。展示室には同社のコレクションで貴重な写真鏡から銀板・湿板のアンティ-

クカメラとそれらの写真の数々、横浜写真、静止画像を動画や立体で見せる複製再現品まであり、ここでは写真の原点と初期の歴史を知ることができる。特に写真を趣味とする方、写真や映像を学ぶ学生などに、見て、触れて、楽しむ見学を推奨したい。同窓生諸氏には、六本木にお越しのせつに東京ミッドタウンに立ち寄られるのも一興と思う。このフォトミュージアムの監修には、小池恒裕氏(33期)が担当され、展示方法に苦労の様子が随所に見られる。又9月末から第二回の展示に替わり、カラー写真誕生100年に当たる今年、そのオートクローム乾板の原版が展示の目玉として見られるという、大いに期待したい。

中村正弥 (34期)



### 木村伊兵衛賞を受賞して

本城直季氏 (79期)

木村伊兵衛賞の授賞式を終えてから半年が経ちましたが、実はいまだに自身がこのような栄誉ある賞を授かったことに実感が湧いていません。受賞の旨を写真集を出版した会社リトルモアの担当編集者から連絡が入り、とてもよい知らせがありますと言われましたが自分では何のことかよく分からなかったのを良く覚えています。

実は生活面でも、受賞前と受賞後では何も変わっておらず大学に通っていた頃のような学生の生活をしています。ただ、受賞したことはこれからも写真を続けていく中で心の奥の支えとしていつまでも持っていけたらと思っています。

岩朝哲男 (29期) 写真展

### 50年の歩みと「月光の鳴門」及び趣味の「佛像彫刻」

2007年7月31日(火)～8月5日(日)  
東京・四谷・ポートレートギャラリー

岩朝哲男氏の写真作品50年の歩みが展示された。開催前日の7月31日に、29期の卒業生が中心になって、オープニングパーティが開かれた。

(記・37期・阪川)



平成19年7月30日 岩朝哲男写真展 文協役員と29期生 ポートレートギャラリー





# サンバで舞う♪ ☆♡『神戸まつり』！ 平成19年度 30期『旅の30会』の集い

新緑の神戸で《美女と野獣？》が1年振りにお互いの元気を慶びあいました。5月11日～12日は丁度『神戸祭り』が市内の中央部一帯で開催中でした。

今年も総数15名で(敬称略・アイウエオ順)石塚嵩子、猪野一夫、今村稔、貝塚裕、加藤尋康、小日向修、曾根真嗣、千葉む津子、長谷川弥、福岡武雄、藤森進、古屋政男、風呂田哲生、松本一馬、吉野宗治の面々が新潟、広島、関東、名古屋、そして地元から新神戸駅に集まりまずは紙風船のような《新神戸ロープウェイ♡神戸夢風船♡》に乗り六甲山のハーブ園に移動し、ハーブの香りのなかで神戸市街・新神戸空港・大阪湾を眺めながら異人館が多い北野へと向かいました。

神戸市は大阪湾と六甲山脈に挟まれた東西に細長い街で山側は見晴らしが良く神戸港の開港に伴ってやって来た人々が母国の建築様式で建てた異国情緒溢れたお屋敷が多く残っています。これらの異人館をぐるぐる巡り代表的な「風見鶏の館」をバックに全員で？記念撮影をしました。

- ◎後列向かって右から 吉野・福岡・藤森・小日向・長谷川
- ◎2列目向かって右から 今村・曾根・猪野・石塚・古屋
- ◎前列向かって右から 貝塚・松本・加藤・千葉 (敬称略)
- ◎全員の筈が行動派の風呂田氏はどこへ!?



「風見鶏の館」をバックに記念撮影 (貝塚氏撮影)

宿泊は、ここ北野の「ホテル北野プラザ六甲荘」です。当ホテルには母校工学部8期卒業の滝本亮太郎氏が営業課マネージャーとして勤めておられますのでフロントと宴会係の方々の気配りも申し分無く宴会は大広間にカラオケを入れて、のど自慢大会をしたり、近況を披露しあい和やかな雰囲気です。二次会に移り神戸の夜更けを学生時代に還えり、50年余りタイムスリップした《美女と野獣？》でした。料理と談

笑に花を添えて頂いたのが新潟の【別撰・越乃寒梅】を曾根氏から鹿兒島の【てんからもん】を小日向氏から何れも【銘酒】の差し入れてでした。

翌朝も昨日同様、快晴に恵まれて神戸の町並みによく似合うレトロ調の《走る異人館・シティーバス》に乗りガイド嬢の案内で開港して今年で140年になる神戸港に下り「神戸港クルージング」の《オーシャンプリンセス》に乗り神戸空港、明石海峡大橋等、湾内の見どころを遊覧しました。船上で潮風に撫でられながら乾杯したビールの美味しかったこと！

神戸にも華僑の方々が大勢住んでおられ、中華料理店、茶店、

雑貨店が集まった賑やかな街です。年に何回かの華僑のお祭りは、この南京街で盛大に催され遠方からも見物客が来られる貴重な観光資源です。

昼食会は国内、3大中華街の1つの『神戸南京街』の「群愛飯店」です。めいめい好きなメニューの昼食を終えて、いよいよ『神戸祭り』の見物に出掛けました。私は30歳半ばから神戸近郊でも住み市内に勤務しましたので『神戸祭り』は身近なお祭りです。それで「サンバ祭り」と云われるルーツを少し紹介しましょう。

昭和8年の大不況に見舞われた神戸も港を中心に不況の嵐が吹き荒れていました。

景気の回復を願い市民を元気づける為に港街らしい祭りを企画した市民の有志が従来の神様仏様を中心としたお祭りから神戸港に縁が深いアメリカやブラジルの踊りを参考にして明るい華やかなロックとサンバ調の『港祭り』が誕生しました。

それから時代の流れと共に盛衰を重ねながら続いていましたが第二次世界大戦が終わり被爆から復興し落ち着きを取り戻した昭和46年にグレードアップしたカーニバル風のサンバ♪☆『神戸祭り』が誕生しました。

この年、昭和46年を第1回として今年で37回目になりました。

周知の通り神戸は、ジャズやラテン系の踊りが盛んで毎年『神戸祭り』には地元の「神戸サンバチーム」初め、数チームの「サンバ



目抜き通りで繰り広げられたサンバパレード (吉野氏撮影)

チーム」や「婦人会」と「子供会」等、踊りに参加する人が1万5千人で見物客が2日間延べ93万人集まりました。

私達も人混みの中で散りじり、ばらばらになり見物しました。サンバダンサーの踊りと生演奏の歌にアツというまに集合時間が来てしまい何とか全員の顔合わせができ、来年の再会を誓って帰路に着きました。

今回の『旅の30会』は福岡氏が事前に現場に赴き打ち合わせをして案内状の発送から2日間にわたる現場でのお世話、そして記念写真を各氏へ発送し、最後には会計処理まで大変な労力と時間を費やして頂きました。

その上に前回の『旅の30会』の際に約束された立派な陶芸作品の「ぐい呑み」を全員に記念品として頂戴しました。

早速この「ぐい呑み」で宴会と二次会の席でも前記の銘酒を美味しく味わいました。

又、貝塚氏と吉野氏が現役時代に磨いた腕を振るって撮影を担当し小日向氏によりプリントして頂きました。



「ぐい呑み」 福岡氏作・撮影

この楽しい『旅の30会』は今年で10回目になりました。来年は曾根氏のお世話で新潟近郊に集まる事にしておりますので是非お誘い合わせの上、多くのご参加をお待ちしています。

(記・松本一馬)

## 阪川武志先生退職記念パーティーを終えて



阪川武志先生は45年間に渡り写真研究並びに後進を育成し今春、定年退職により東京工芸大学芸術学部写真学科教授を退職されました。

9月9日（日）中野サンプラザ宴会場において、退職記念パーティーを開催しお世話になった先生のもとに研究室の卒業生はじめ同級生など親しい方々が80名強集まり盛大な中にも和やかなパーティーとなりました。

パーティーの中で今春卒業したメンバーによる中野キャンパス近況紹介が行われました。きれいに整備されていく校舎や写真暗室、図書館などの現状に数十年前に卒業をされた諸先輩方からはどよめきが聞こえてきました。

また現在の芸術情報館の場所は以前運動場であったことなどを逆に教えて頂き中野キャンパス今昔話に会場内からは笑いが絶えませんでした。お忙しいところパーティーに参加くださり誠にありがとうございました。

先生のもとに短期大学時代の諸先輩方や4年制以降の卒業生も多く集り、様々な年代の交流の場にもなりました。

池谷彩子（73期）



参加者全員で阪川先生を囲んで  
平成19年9月9日 於：中野サンプラザ

# 支部だより

## 関西支部

### 平成19年 支部総会

平成19年7月7日(土)、関西支部恒例の総会を大阪市北区にあります「ラムダホテル」にて開催し近畿各地から同窓生が参加しました。大学からは、箱守健理事の出席を頂きました。

38期滝口氏の名司会のもと、今年の3月にお亡くなりになりました30期の公文哲氏に黙祷を捧げ、42期駕田支部長の挨拶に始まり各役員、各地区の活動報告、会計報告、予算案などが審議されました。

講演会では、箱守健理事より大学の近況、推薦入試などのお

話しを頂き、そのあと「お札と切手」の講演をして頂きました。特に、お札は生活と密着しており参加者全員が終始、興味深くまた楽しく聞き入っていました。

記念撮影の後、懇親会に移り38期滝口氏の司会、24期山本氏の乾杯に始まり、初参加2名(工一7期鈴木氏、工一4期八木氏)を新たに加え、時間の経つのも忘れ、現役に戻ったように話も弾み大いに盛り上がり、工一25期鈴木氏の中締めで来年の「新年会」での再会を約して散会となりました。



東京工芸大学同窓会関西支部 総会 平成19年7月7日 於：ラムダホテル



支部長 駕田 毅氏(42期)



大学よりの来賓紹介 箱守 健(58歳)

全国の同窓会会員の皆様には日々ご壮健で各種分野においてご活躍のこととお慶び申し上げます。

同窓会北海道支部では、8月24日(金)札幌パークホテルで催された大学の進学相談会に田村寛准教授、清水義久入試課長心得がお見えになった機会に、加藤春生名誉教授もお迎えして支部同窓会を開催しました。

開催までに時間的な余裕が取れなかったため、北海道内におられる約170名の支部会員全員には連絡がとれないために、役員の方々に限らせてもらい連絡をしました。札幌から300km離れたオホーツク海に面した北見枝幸から甲斐敬章(54期)も駆けつけてくれました。

平成3年9月に同窓会全国大会を当支部がお引き受けして、定山溪温泉で開催して以来の久々の同窓会開催となりました。

それだけに支部会員同志から、積み重なったウイットに富んだ近況報告がなされました。昨年9月1日に開催された全国支部長会議に筒淵支部長が出席しておりますが、田村寛准教授から最新の北海道内の工芸大学への受験状況が詳しく報告され、支部会員一同よく納得することができました。

北海道の今夏は例年のない猛暑が続き、開催当日も記録的な暑さに見舞われ、サッポロビールで涼をとりながらの楽しい同窓会となりました。

北海道支部では、今後とも工芸大学同窓会、さらには工芸大学の発展に少しでもお役に立ちたいものだと考えております。

(支部長 筒淵美允)



北海道支部同窓会：平成19年8月24日 炙屋 アステイ（札幌）で

### 特別展「写真を知る・楽しむ」の開催

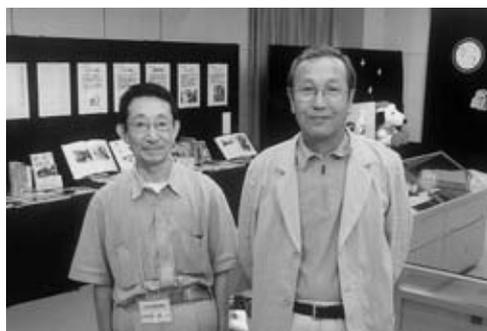
同窓会北海道支部では、江別市情報図書館に全面的に協力して表題の特別展を開催したので報告します。

記

- 1 日 時 平成19年7月21日(土)～7月29日(日)
- 2 場 所 北海道江別市野幌末広町  
江別市情報図書館 特別展示室
- 3 特別展名 特別展「写真を知る・楽しむ」
- 4 展示内容

歴代のカメラや江別市を現在に伝える古写真、写真関連図書や写真史ミニ知識、写真の知識等のパネルを展示して、写真の歴史をたどった。

本展示は、37期工業科の筒淵美允と川守田順吉の二人が企画して実現したもので、工芸大学芸術学部の紹介も併せて行い好評を博した。



川守田順吉・筒淵美允

**◇特別展示のご案内◇**

アナログからデジタルの世界へ大きく変化した写真技術  
その魅力をのびのびと見ませんか

**展示会「写真を知る・楽しむ」**

写真関連図書や写真の歴史パネル展示  
江別の歴史的写真のパネル展示  
俄かしの蛇腹カメラから一眼レフカメラまで  
しりプリントをお浴槽に活用する方法  
レンズ付カメラで遠景撮影を省くなど

会場/江別市情報図書館 江別市野幌末広町7  
期間/平成19年7月21日(土)～29日(日) 10:00～17:00  
※休館日～7月23日(月)・7月27日(金)  
後援/東京工芸大学同窓会北海道支部

# 埼玉県支部

## 埼玉県支部同窓会・発会式を開催

埼玉県支部同窓会の発会式は、去る平成19年9月9日(日)、さいたま市新都心の「ホテルプリランテ武蔵野」にて、21名の参加者を得て開催いたしました。この同窓会は、首都圏支部解散後初めての会合として、銘記すべきものでもありました。

先ず豊島泰之支部長が、埼玉県支部同窓会設立に向けての経緯報告を行い、続いて東京工芸大同窓会の奥田昇副会長、並びに川名晴美理事長よりご挨拶を戴き、また立川宏司常務理事より設立に向けての励ましの言葉がありました。

次いで、今後の埼玉支部の運営に関わる意見交換を活



東京工芸大学同窓会埼玉支部総会 平成19年9月9日 於プリランテ武蔵野

発に行いました。

その状況としては、①今回の開催案内状は、埼玉県在住登録会員948名に発送しましたが、返信は243名(回収率26%)。うち、今後の連絡は不要とする方は133名(14%)でした。②とは申せ、支部同窓会の必要性については、今回の参加者全員が認めているところであり、今後の実績の積み重ねの中から、大いに活性化を図っていくとの合意を得ました。③なお、連絡網充実のためにはそれなりの経費が必要であり、今回の参加者より2千円の通信費を頂いて、次回の埼玉県支部同窓会開催のための対応に当てることにしました。

その後、細江英公講師(東京工芸大学同窓会副会長/同大名誉教授)による「作家、作品を語る」と題しての講演があり、1960~2007年に発表された作品の解説が行われました。

懇親会は、中野慶一氏(27期)の乾杯で始まりましたが、自己紹介を挟んで様々な話題が続出し、予定時間を30分延長しても閉会出来ないという盛り上がり方でした。

初対面の会員もおりましたが、同窓生同士との仲間意識が心の垣根を取っばらい、次回が本当に楽しみだとの声が渦巻くなか、別れを惜しんでのお開きとなりました。

(35期 豊島泰之 記)

# 新潟県支部

## 新潟県支部・支部総会を開催

新潟県支部では9月8日に支部総会を開催しました。同窓会本部からは池田陽子教授にお出戴き、講演で「文楽の撮影」を拝聴しました。会場は駅から8分の長岡商工会議所でした。

総会では、一年間の収支報告やこれからの活動などが話し合わせ、新しい企画として来年、新年会を開催する運びとなりました。総会の最後に記念撮影をしたのち、池田教

授の講演が始まりました。また、事前に作品を送って戴いていましたので会場に展示することが出来ました。

講演では、大学や先生方の近況の話に続いて本題の「文楽の撮影」が始まり、大変興味深く拝聴いたしました。

懇親会は、会場を長岡駅近くに移し開催しました。池田教授と同期の方が2名いらしたので特に盛り上がりました。



東京工芸大学同窓会・新潟県支部総会 於長岡商工会議所 2007.9.8

## 訃報一覧

故人になられました皆様に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

事務局からの訃報のご連絡が遅くなりましたことを謹んでお詫び申し上げます。

また、過去の訃報欄で、すでにご報告した故人が重複して掲載されておりましたら、失礼の段お許し下さいますようお願い申し上げます。

杉 籬 (第3期・旧制卒)	田中 俊朗 (第22期・化学工業科卒)	藤井 勝利 (第34期・写真技術科卒)
二階堂 忍 (第6期・旧制卒)	中村 信哉 (第22期・化学工業科卒)	茂住 英志 (第34期・写真技術科卒)
藤田 道雄 (第6期・旧制卒)	高木 嘉介 (第23期・写真技術科卒)	米澤 直行 (第34期・写真技術科卒)
林 清七 (第7期・旧制卒)	吉清 益好 (第23期・化学工業科卒)	矢崎 義孝 (第34期・写真工業科卒)
村上 稔二 (第7期・旧制卒)	長谷川市之丞 (第23期・写真工業科卒)	別所 孝治 (第34期・写真工業・工業技術科卒)
吉川 喬 (第7期・旧制卒)	糟谷 一行 (第24期・写真技術科卒)	竹内 勇 (第34期・写真工業・製版科卒)
金沢 秀憲 (第8期・旧制卒)	山口 久雄 (第24期・写真技術科卒)	帆足 脩 (第35期・写真技術科卒)
野田 省吾 (第8期・旧制卒)	吉岡 寛 (第24期・写真工業科卒)	熊谷 漢司 (第35期・写真工業・製版科卒)
成松 康夫 (第10期・写真理学科卒)	伊東 誠 (第25期・写真技術科卒)	長岡 宏 (第35期・写真工業・製版科卒)
湯川 浩佑 (第10期・写真理学科卒)	市川 文雄 (第25期・写真工業科卒)	小島 洋一 (第37期・写真工業科卒)
田嶋 義三 (第13期・写真理学科卒)	斉藤二三夫 (第25期・写真工業科卒)	村井 淳 (第37期・写真工業科卒)
長野 守宏 (第13期・写真理学科卒)	風戸美喜雄 (第26期・写真技術科卒)	池田 征夫 (第37期・写真印刷科卒)
佐藤 俊克 (第14期・写真理学科卒)	淵上 正喜 (第27期・写真工業科卒)	深瀬 了暉 (第37期・写真印刷科卒)
佐藤 種男 (第15期・写真芸術科卒)	今井 友一 (第28期・写真技術科卒)	川嶋 昭喜 (第38期・写真技術科卒)
唐沢 健二 (第16期・写真芸術科卒)	永嶋 永 (第28期・写真技術科卒)	谷 郁男 (第40期・写真技術科卒)
垣田 良夫 (第16期・写真理学科卒)	館野徳重郎 (第28期・写真工業科卒)	本橋 清男 (第40期・写真印刷科卒)
保積 英次 (第16期・写真理学科卒)	沼田 光雄 (第28期・写真工業科卒)	渡辺 賢二 (第40期・写真印刷科卒)
河部十三蔵 (第17期・写真芸術科卒)	安藤 良男 (第29期・写真技術科卒)	山本 誠一 (第41期・写真技術科卒)
沼崎 洋 (第17期・写真理学科卒)	酒井 啓之 (第29期・写真技術科卒)	青山 清 (第42期・写真工業科卒)
三堀 家義 (第18期・写真芸術科卒)	石井 久夫 (第30期・技術科科卒)	市原とも子 (第43期・写真技術科卒)
内藤 清明 (第18期・写真理学科卒)	山村 陽一 (第30期・技術科科卒)	高畑 健治 (第43期・写真工業科卒)
山下 新平 (第18期・写真理学科卒)	半沢 茂夫 (第31期・写真技術科卒)	倉田 英世 (第46期・写真技術科卒)
朝倉 隆 (第19期・写真芸術科卒)	堀越 薫 (第31期・写真工業・工業技術科卒)	広瀬真知子 (第46期・写真技術科卒)
有本 秀幸 (第19期・写真芸術科卒)	望月 満男 (第31期・写真工業・工業技術科卒)	菅原真知子 (第46期・写真技術科卒)
江本 節也 (第19期・写真理学科卒)	溝端 弘輝 (第32期・写真技術科卒)	窪田 二郎 (第46期・写真応用科卒)
前里 光夫 (第19期・写真理学科卒)	村田 哲朗 (第32期・写真技術科卒)	近藤 隆 (第46期・写真応用科卒)
矢島 一穂 (第20期・写真芸術科卒)	山本 守正 (第32期・写真技術科卒)	鴨下 茂行 (第46期・写真印刷科卒)
飯島 実 (第20期・写真理学科卒)	並木 秀人 (第32期・写真工業・工業技術卒)	木立 和伸 (第47期・写真技術科卒)
漆原 正仁 (第21期・化学工業科卒)	坂本 直也 (第33期・写真技術科卒)	石井 妙子 (第47期・写真技術科卒)
岡本 好雄 (第21期・化学工業科卒)	松本 一雄 (第33期・写真技術科卒)	滝澤美智子 (第47期・写真応用科卒)
佐藤 登 (第21期・化学工業科卒)	大橋正一三 (第33期・写真技術科卒)	高橋 義昌 (第56期・写真技術科卒)
美濃谷正義 (第21期・化学工業科卒)	岩田 次夫 (第34期・写真技術科卒)	内海 直也 (第69期・写真応用科卒)
宮下 健 (第22期・光学機械科卒)	亀井 良雄 (第34期・写真技術科卒)	遠藤 俊介 (第80期・写真学科科卒)

## 編集後記

前広報委員長の阪川先生は約8年間教職と広報委員長としての多忙にもかかわらず同窓会報「ひろば」の編集責任者を務めてこられました。広報委員一同より永い間本当にご苦労様でした。これからもよろしくご指導の程お願いします。

さて、新しい広報のメンバーを含めた委員をご紹介します。

・広報委員長 中村正弥 (34)、阪川武志 (37)、木村政夫 (38)、福村敏 (45)、内藤明 (47)、板垣雅春 (49)、糸賀成永 (56)、池谷彩子 (73)

(木村、福村、内藤の各氏は本学の教員)以上8名のメンバーで「ひろば」の編集や紙面作りをいたします。尚皆様の原稿をより多くいただけるよう委員一同お待ちしております。

広報委員長 中村正弥 (34)